

教育講演 (小ホール) 14:30 ~ 15:30

テーマ 「坐位から考える高齢者の移動能力と生活機能評価」

大阪府立大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科
准教授 樋口 由美 先生

【略歴】

学歴

平成3年筑波大学第2学群人間学類卒業後、京都大学医療技術短期大学部理学療法学科を経て、滋賀医科大学医学系研究科修士課程、大阪医科大学大学院博士課程修了。

職歴

平成6年より大阪医科大学附属病院リハビリテーションセンター勤務、平成10年以降、大阪府立看護大学総合リハビリテーション学部助手等を経て、現職に至る。

【要旨】

高齢期における移動能力は要介護レベル、疾病レベルの双方の観点から有用な指標とされる。これは、移動能力障害が IADL や ADL を含む生活機能の低下と関連するだけでなく、疫学的に生命予後の不良をも予測することが明らかにされているためである。

移動能力が低下した高齢者に対し、我々理学療法士が個別に行なう治療は一定の効果を挙げている。今後は、増加する軽度要介護者に対して、適切な集団指導（体操）にも目を向ける必要があると考え、我々は「座位」に注目している。

座位で測定されうる身体機能と移動能力との関わり、IADL や ADL との関連について報告し、座位トレーニングの可能性について述べてみたい。